

仏説観無量壽經

世尊また尊者富楼那を遣わして王の爲に法を説かしむかくのごとき時の間に三七日を経たり王酥蜜を食し法を聞くことを得るが故に顔色和悦せり時に阿闍世守門の者に問わく父王今者なお存在せりや時に守門の人大王にもうしてもうさく国の大夫人は身に麩蜜を塗り瓔珞に漿を盛れてもつて王に上り沙門目連および富楼那は空より来て王の爲に説法す禁制すべからず時に阿闍世この語を聞きおわつてその母を怒つていわく我が母はこれ賊なり賊と伴なればなり沙門は悪人なり幻惑呪術をもつてこの悪王をして多日に死せざらしむといつてすなわち利剣を執つてその母を害せんと欲す時に一りの臣あり名づけて月光という聰明多智なり

為

令和 年 月 日

淨 写